



(2005年2月)

【今後の学会活動予定】

1. 平成17年度大会開催予定

日 時：2005年3月29～31日  
場 所：静岡グランシップ（静岡県コンベンション  
アーツセンター）（〒422-8005 静岡県静岡市  
池田79-4 TEL: 054-203-5710  
<http://www.granship.or.jp/>)  
問合せ先：平成17年度日本植物病理学会大会事務局  
〒422-8529 静岡市大谷836 静岡大学農学部  
植物病理学研究室内  
TEL & FAX 054-238-4823（露無慎二）  
または054-238-4824（瀧川雄一）  
Eメール [tsuyumu@agr.shizuoka.ac.jp](mailto:tsuyumu@agr.shizuoka.ac.jp)  
または [abytaki@shizuoka.ac.jp](mailto:abytaki@shizuoka.ac.jp)

2. 平成17年度部会開催予定

- (1) 北海道部会：未定  
(2) 東北部会：未定  
(3) 関東部会  
日 時：2005年9月15～16日  
場 所：東京農工大学農学部（府中市）  
(4) 関西部会  
日 時：2005年9月17～18日  
場 所：名城大学（名古屋市）  
(5) 九州部会  
日 程：2005年9月7～8日  
場 所：立命館アジア太平洋大学（別府市）

3. 談話会・研究会

- (1) 第8回植物病害生態研究会  
日 時：2005年3月28日 13～17時  
場 所：静岡グランシップ（静岡県コンベンション  
アーツセンター）（〒422-8005 静岡県静岡  
市池田79-4 TEL: 054-203-5710）

(2) 第9回バイオコントロール研究会

日 時：2004年3月28日 9～17時  
場 所：静岡グランシップ（静岡県コンベンション  
アーツセンター）（〒422-8005 静岡県静岡  
市池田79-4 TEL: 054-203-5710）

(3) 第15回殺菌剤耐性菌研究会シンポジウム

日 時：2005年3月28日 10:00～16:20  
場 所：静岡グランシップ（静岡県コンベンション  
アーツセンター）（〒422-8005 静岡県静岡  
市池田79-4 TEL: 054-203-5710）

(4) 第41回植物感染生理談話会

日 時：2005年8月18～20日  
場 所：サンポート高松シンボルタワーかがわ国際  
会議場（高松市）

(5) 第23回植物細菌病談話会

日 時：2005年9月29～30日  
場 所：ホテル「海辺の果樹園」（高知県香美郡夜  
須町）

【共催その他】

第6回植物病原菌類談話会

日 時：2005年3月28日（月）  
場 所：静岡グランシップ（静岡県コンベンション  
アーツセンター）（〒422-8005 静岡県静岡市  
池田79-4 TEL: 054-203-5710）

問い合わせ先：

岐阜大学流域圏科学研究センター 景山  
([kageyama@cc.gifu-u.ac.jp](mailto:kageyama@cc.gifu-u.ac.jp))  
農業生物資源研究所遺伝資源研究グループ  
青木 ([taoki@nias.affrc.go.jp](mailto:taoki@nias.affrc.go.jp))

【学会活動状況】

1. 部会開催報告  
(1) 九州部会

平成16年度の九州部会は例年通り九州農業研究会との共催で、10月20日沖縄県那覇市にて開催の予定であったが、台風23号の直撃によって開催を順延せざるをえない事態となった。急ぎ関係機関と調整を図り、11月8日(月)午後と9日(火)午前中に部会講演会、同日午後九州部会シンポジウムという変則的スケジュールながら、熊本県の九州沖縄農業研究センターにて開催する運びとなった。突然の日程変更に伴って講演題数ならびに参加者が当初の予定より減少することとなったが、細菌病6題、菌類病5題、防除薬剤関連等7題、ウイルス・ウイロイド病9題の合計27題で、参加者による熱心な討議が行われた。役員交代、次年度開催計画等が幹事会において審議され、その結果、平成17、18年度の九州部会長に宮崎大学の上運天博氏が選出されたこと、平成17年度部会は大分県別府市で開催されることなどが総会において報告された。2日目午後には第29回九州部会シンポジウムが開催され、佐賀県果樹試の井手洋一氏による「果樹におけるEBC(Evidence-Based Control)防除技術の構築を目指して～農業散布から解放されるためには良質の科学的根拠が必要である～」九州沖縄農研・小板橋基夫氏による「揮発性生菌物質生産糸状菌 *Irpex lacteus* による地上部病害の生物防除」、ならびに果樹研究所カンキツ研・塩谷浩氏による「カンキツかいよう病菌の病原力発現機構」の3題の話題提供があり、活発な論議が行われた。(高浪洋一)

## 2. 関連学会等情報

### (1) 馬鈴薯そうか病に関する国際シンポジウム報告

平成16年9月6日～7日に北海道大学学術交流会館において、シンポジウム組織委員会主催、日本植物病理学会共催の下、「International Potato Scab Symposium (IPSS2004)」が「馬鈴薯そうか病対策へ向けた新たな研究アプローチ」をメインテーマにして開催された。各国の第一線の研究者が一堂に会したそうか病に関する初めての国際会議でもある。当日はアメリカ、カナダ、北欧、オーストラリア、韓国、中国ほか、全国から計160名の参加者(研究機関、行政、生産者団体、学生)があり、招待講演とポスターセッションが行われた。招待講演(1)そうか病菌の同定と病原性の部では、①病原性の進化(R. Loria, コーネル大)、②毒素生産(夏目雅裕, 東京農工大)、③病原菌の同定と定量法(田中文夫, 北海道立中央農試)、④スカンジナビア諸国における病原菌の同定・検出・防除研究の現況(J.P.T. Valkonen, ヘルシンキ大)、⑤韓国におけるそうか病菌の特性(C.K. Lim, 国立江原大);(2)抵抗性品種の育種の部では新たな抵抗性検定や選抜法など

を含め①カナダ(T. R. Turn, ジャガイモ研究センター)および②日本(小林晃, 北海道農業研究センター)における研究の現状と今後の育種戦略;(3)防除の部では、①中国におけるそうか病の生態と防除(D. Liu, 河北農業大)、②オーストラリアにおける防除・宿主と病原菌の相互作用(C. R. Wilson, タスマニアジャガイモ研究センター)、③土壌交換酸度・有機物施用・緑肥の効果(志賀弘行, 北海道立北見農試)、④病害の発生程度に応じた総合防除(田中民夫, 北海道立中央農試)、11課題の最新情報と各国における被害の発生実態が話題提供が同時通訳(日英)で行われ、活発な議論がなされた。ポスターセッションの部では、病原菌の同定・検出に関連したものが6課題、抵抗性育種関連が1課題、防除関連が7課題、その他1課題の合計15課題の発表があり、それぞれ活発な意見交換が行われた。これら本シンポジウムの成果は英文・邦文併記の要旨集(A4版, 395頁)として纏められている。シンポジウムを開催に当たり、北海道馬鈴薯生産安定基金協会、北海道澱粉工業協会をはじめ、北海道内の関係諸団体より多大なご支援を賜った。これら関係機関に厚くお礼申し上げる。最後に、今回のシンポジウムが次回国際会議開催への第一歩となることを期待するものである。

(内藤繁男)

### (2) 韓国植物病理学会創立20周年年会報告

2004年10月7日～8日に、韓国江原道 Pyeongchang のフェニックパークリゾートにおいて、韓国植物病理学会(Korean Society of Plant Pathology: KSPP)創立20周年を記念して年会兼国際シンポジウム「New Horizons in Plant Pathology: Biotechnology for Plant Health」が開催された。この会議に参加する機会を得たので、簡単に会議の概要などを報告する。KSPPは約800名の会員を擁し、今回のシンポジウムには約700名の会員が参加したとのことである。会議は英語をオフィシャル言語とし、約220題の主に学生会員によるポスター発表および、Jan E. Leach (Colorado State Univ), Susan Knight (Syngenta), Sophien Kamoun (Ohio State Univ), Alan Collmer (Cornell Univ), 川崎信二(生資研)ら(敬称略)による27題の基調講演および招待講演が行われた。日本からは5名の参加があった模様である。バンケットにおいて、米山勝美日本植物病理学会長からのKSPPの20周年を祝うメッセージをKSPPのChang-Seuk Park会長に伝達したところ、非常に感謝されるとともに、今後両学会がさらに密接な関係を保ち、近い将来にジョイントミーティング等の開催をしたい旨のメッセージを頂戴し、帰国後これを米山学会長に

お伝えした。なお、ポスターおよび講演を見せて頂くに、韓国の植物病理学研究のレベルが高いことが感じられた。殺菌剤や生物防除などの防除対応等の発表が多いのが印象的であった。シンポジウムの最後には、15名の学生にポスター賞が授与され、若手育成にも力を注いでいることが感じられた。また、20周年記念に、韓国植物病理学会20周年史（ハングル）および韓国植物病名目録（ハングル、英語併記）が出版、配布された。（有江 力）

#### 【学会ニュース編集委員コーナー】

##### 情報提供および投稿のお願い

本ニュースは身近な関連情報を気軽に交換することを主旨として発行されております。会員の各種出版物の御紹介、書評、会員の動静、学会運営に対する御意見、会員の関連学会における受賞、プロジェクトの紹介などの情報をお寄せ頂きたくお願いいたします。

投稿宛先：〒170-8484 豊島区駒込1-43-11

日本植物防疫協会ビル内  
学会ニュース編集委員会

FAX: 03-3943-6086

または下記学会ニュース編集委員へ：

松山宣明, 阿久津克己, 加来久敏, 富岡啓介, 各委員宛

---

#### 編集後記

新年明けましておめでとうございます。昨年は災害の多い年でしたが今年は平穏な年であって欲しいものです。さて、学会ニュース第29号をお届けします。昨秋開催の馬鈴薯そうか病に関する国際シンポジウムの報告、九州部会の開催報告が載せられておりますが何れも台風の影響を蒙り、関係者のご心労は大変なものだったとお聞きしております。本当にご苦労様でした。また、韓国植物病理学会創立20周年年会報告は前号への掲載が間に合わず今号に載せさせていただきました。その他、本年度開催予定の日本植物病理学会大会、同部会のニュース、談話会、研究会の開催予定が載せられております。書評は印刷日の関係で掲載出来ませんでした。（松山宣明）

---